

学長のコラム

AI・ロボットの話 (2/2)

前回 (11 月号) では、人間の仕事を奪いかねない、優れた強いロボットの話を紹介しましたが、全く逆の発想をした<弱いロボット>の話も非常に興味深い。豊橋技術科学大学の岡田美智男教授の研究室では、あえて便利な機能を備えない<弱いロボット>の開発を通して、ロボットと周囲の人間とのコミュニケーションに注目し、人間とロボットの共生の在り方を探っている。その一例「ゴミ箱ロボット」は、ゴミ箱の形をしており、床や地面に落ちているごみを感じると、“よたよた”と近づいて行くがそれを拾う機能はついておらず、近くの人間に対してぺこりとお辞儀をする。すると、見かねた人間がごみを拾ってゴミ箱に入れる。これを受けて、また、ロボットはぺこりと頭を下げる。このように<弱さ>を使って、人間とのコミュニケーションを生み出すのが特徴である。これ以外に、学生が考え出したのは、人を見つけると“ムム・・・”と話しかけたり、言葉足らずのおしゃべりをする「Mu u (む〜)」というロボット、話しかけたり触れることでぶるぶると反応する白い直方体の「とうふ」というロボットなど 30 種を超える<弱いロボット>を開発しているという。<弱いロボット>とのコミュニケーションを通じて、対応する人の学習効果が得られるので、他人と交わることが苦手な子供でも弱いロボットとは、かかわることができる・・・など、岡田教授の研究は、ロボットと人間の共生社会の実現への道筋のひとつを示している。本学に関係付けて考えると、一人暮らしの高齢者の医療補助具、学生諸君のコミュニケーション実習ツールなどに活用できるかもしれない。従来の考え方の延長線上にあるイノベーションではなく、まったく新しい価値観をもたらす逆転の発想にたく感銘したので紹介させていただいた。(参考文献:国立大学協会広報誌“国立大学 vol.46”)



12 月・1 月・2 月の主な行事予定

12/27(水)	仕事納め式 11:00～ (注) 勤務時間は、8:30～12:00
12/28(木)	※H29. 11/11(土)推薦入試日(出勤日)の振替休日
12/29(金)	年末・年始休暇(職員) 12/29～1/3
1/4(木)	※H30. 2. 4(日)一般入試(出勤日)の振替休日
1/5(金)	仕事始め式 11:00～ 勤務時間は、10:00～12:00
1/6(土)	認定看護師教育課程 認知症看護分野入試
1/9(火)	授業再開(通常勤務) *レストラン開始
1/10(水)	助産学実習指導責任者会議 10:00～13:00
1/11(木)	熊保大 健康と科学の夕べ講演会 19:00～ 50周年記念館
1/13-1/14	大学入試センター試験 (一部の教職員、2日間業務)
1/22(月)	入試業務説明会◆熊本会場 (主に教員対象) 18:00～
1/23(火)	入試業務説明会◆熊本会場(主に事務職員対象) 11:00～◆地方会場 (地方会場担当者対象) 18:00～
1/26(金)	後期定期試験 1/26～2/5(予備日含む)
2/3(土)	地方会場入試担当者出発 平成 29 年度看護学科同窓会 16:00～ ネストホテル熊本
2/4(日)	一般入学試験 (本学・地方会場) *出勤日→振替休日 1/4 (注)先に取得済み
2/8-2/9	看護学科キャリア教育セミナー
2/10(土)	卒業 1 年目同期会「久しぶり、元気かい(会)」
2/15(木)	助産師 国家試験日
2/16(金)	保健師 国家試験日
2/17(土)	言語聴覚士 国家試験日
2/18(日)	看護師 国家試験日
2/21(水)	臨床検査技師 国家試験日
2/25(日)	理学・作業療法士 国家試験日
2/26(月)	利益相反に関する研修会 (教職員対象)

国家試験



新アリーナ
(内部)

H29. 12. 14 撮影
企画課

地域包括連携医療教育研究センター研修会

「聞き書き」の“つなぐ力”

～地域の中での医療系専門職と学生の役割～

11 月 24 日、金沢大学名誉教授、日本聞き書き学校講師天野良平先生を迎え、「聞き書き」について学びました。「聞き書き」とは、お年寄りのお話を聞かせていただいて、それをその方の話し言葉で書いて、1 冊の本にして残していく活動のことで、今回の参加者は、本学学生と教員だけでなく、地域の医師、看護師、保健師、介護職など様々な職種の人たちです。この活動を行うことで、人生を語る「語り手」とその物語を聞く「聞き手」、それから出来上がった聞き書き本を読む「読み手」、この 3 人を結ぶ小さな三角形ができること、そして地域の中にこの三角形がたくさんできることで繋がりが強くなる、ということをお話されました。天野先生が作られたたくさんの聞き書き本の実物をもとに、実践のなかでのエピソードや認知症がある人への聞き書き、など紹介されました。多くの参加者から「自分もやってみたい」という感想が聞かれました。

(文責：地域包括連携医療教育研究センター教授 竹熊 千晶)



定礎式

平成 29 年 12 月 15 日(金)新アリーナに於いて、定礎式を執り行いました。(撮影:企画課)



竣工年月日等を彫り込んだ定礎板を新アリーナの外壁に埋め込みました。

認知症徘徊声かけ模擬訓練

平成 29 年 11 月 19 日(日)、本学アリーナにおいて、「認知症を学び、地域(にしごと)で支えよう」というテーマで、市民と産官学が連携した第 1 回認知症徘徊声かけ模擬訓練が行われました。西里校区社会福祉協議会主催のもと、西里校区の市民、介護事業所や北区役所のスタッフ、本学の教員・学生など約 150 名の参加がありました。参加者からは、「声かけに戸惑った」や「声をかける勇気を持ちたい」等の感想が聞かれ、対応の難しさを再認識しつつも、その重要性を実感されていました。(文責:看護学科講師 戸渡 洋子)



国家試験対策講演会

毎年恒例の大畑誠也先生(九州ルーテル学院大学客員教授)による国家試験対策講演会を 11 月 10 日(金)に行いました。先生は、心構えから具体的な勉強法まで、合格のためのメソッドを教授してくださいました。先生の魂のこもった言葉は、学生たちの心にもしっかりと響いたようです。「受験は団体戦」とのこと。国家試験に臨む学生たちが互いに切磋琢磨し、全員が合格することを願ってやみません。大畑先生、ありがとうございました。(文責:国家試験対策委員会事務局)



クリスマスイルミネーション

今年も学友会主催のクリスマスイルミネーションが 12 月 1 日(金)~25 日(月)まで点灯しています。初日の 12 月 1 日(金) 18 時からキャンパススクエアでクリスマスイルミネーションの点灯式が行われ、学友会役員によるハンドベル演奏で『赤鼻のトナカイ』が演奏され、温かい雰囲気になりました。ハンドベル演奏の余韻が残る中、イルミネーションが点灯され、ハンドベルの演奏と綺麗なイルミネーションに大きな拍手が起きました。クリスマスイルミネーションは、5 限目終了後~21 時までキャンパススクエアと 3 号館入口で見ることができます。(文責:学務課)



防災訓練

平成 29 年 11 月 27 日(月)に本年度の防災訓練を実施しました。今回は、11 時 45 分に地震が発生。地震により 1 号館で保健室横出入口、オープンスペース B・C 間の出入口が倒壊するとともに、LL・PC 室で出火し、初期消火に失敗するとした想定の下で、学内にいる教職員と学生が参加する全学規模の大きな訓練となりました。

これまでの訓練では、防災訓練の避難場所をグラウンドの 1 か所としておりましたが、地震発生時には近くの安全な場所に避難すべきとの考え方からグラウンドに加えて新たに第二駐車場を避難先としたり、PHS 通信の通信不能エリアでの連絡手段として無線機の活用についても取り組みました。全般的には、本部隊との地区隊の連携も比較的スムーズであり、12 時 15 分に無事に訓練が終了しました。一方で、無線機の操作・通信トラブルなどシナリオにない出来事にどのように対応するかといった反省点もありました。

今回の防災訓練を踏まえて、更なる本学の防火防災対応の改善に活かしていきたいと思えます。(文責:総務課長 平緒 泰弘)



九州学生災害ボランティアフォーラム in くまもと

11 月 26 日(日)熊本県立大学において、「九州学生災害ボランティアフォーラム in くまもと~九州はひとつ、学生が考える災害ボランティアの明日~」が開催されました。全国初の試みであった災害ボランティアセンター「熊本方式」についての講演の後、熊本県内外の大学生 4 名が災害時のボランティア活動について報告をしました。フォーラムの司会は、本学の蓑田明子さん(看護学科 3 年)と岩木仁美さん(看護学科 2 年)が務めました。災害時における若い力の大きさを改めて感じる機会となりました。(文責:学務課)



(左端)司会の本学・看護学科 2 年の岩木さん

私の秘話ヒストリー

今回は看護学科の荒木 善光助教に投稿していただきました。

大気環境改善のため、排出ガス規制が年々強化される中、国内での生産終了となった二輪車も多い。今年新しくその対象となった YAMAHA の SR400 を、私は過去に愛用していた。今でも懐かしく思うが、空冷単気筒 4 ストロークエンジンが奏でる心地よい振動と排気音、そしてメンテナンスしやすいシンプルなメカニズムに惹かれ、十数年間、ともに歩んできた相棒だった。すぐに YAMAHA のホームページをみると、「生産終了モデル」とある一方で、「発売時期は未定だが、後継モデルの開発に取り組んでいる」とある。うれしい限りであり、「SR であり続けること」という一貫したテーマで、社会環境の変化とともに 30 年以上の間、進化し続ける姿勢には勇気づけられる。保健師活動においても、時代や地域から要請されるさまざまな健康課題に向き合い続け、「安心して、安全に暮らせる地域づくり」をめざしている。常に進化し続ける保健師としての軸を持ちつつ、現在の立ち位置で職責を全うしていきたいものである。